

6. 舗装計画

西口：アースカラー系

- 周辺の自然環境との調和を考慮し、アースカラー系の舗装材で全体を統一する
- 人の活動や桜が映えるよう、シンプルな舗装パターンとし、妙高軸を強調するような配色とする
- 妙高軸上は、シンプルな中にリズム感を出すよう、植栽ピッチと合わせたパターンを配置

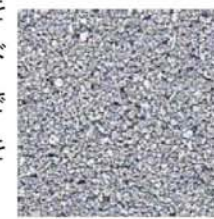
東口：無彩色（グレー系）

- 周辺の都市環境との調和や、ドーム空間のシンボル性を高めるため、無彩色の舗装材で全体を統一する
- 駅雁木が映えるよう、支柱間隔に合わせたシンプルなグリッドパターンとし、ドーム中央は放射状パターンによりドームの中心製を表現する
- グリッド中央には、桜を意識し、無彩色と調和する落ち着いた桜色（灰桜）を配置する

- 共通事項
- 視覚障害者用誘導ブロックを舗装パターンに取り込み、全体の調和を図る
 - 凍結やバリアフリー化に配慮し、透水性の舗装材を使用する

舗装計画平面図 S=1/1,000

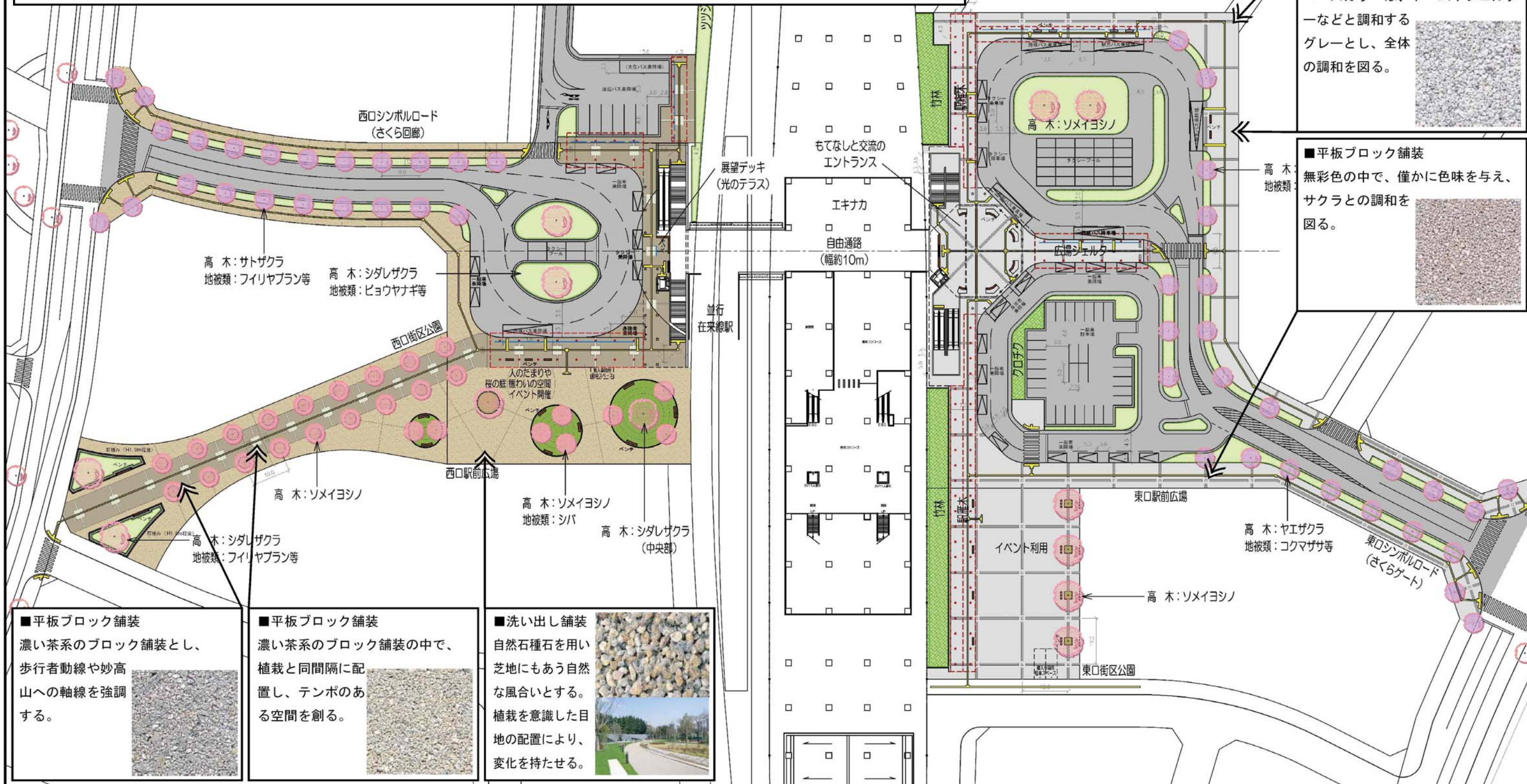
■平板ブロック舗装
雁木などの柱ピッチに合わせて濃いグレーの舗装材を配置し、グリッドを形成することで白味の多い空間を引き締める。



■平板ブロックまたは洗い出し舗装
ベースカラーは、ドームやシェルターなどと調和するグレーとし、全体の調和を図る。



■平板ブロック舗装
無彩色の中で、僅かに色味を与え、桜との調和を図る。



■平板ブロック舗装
濃い茶系のブロック舗装とし、歩行者動線や妙高山への軸線を強調する。

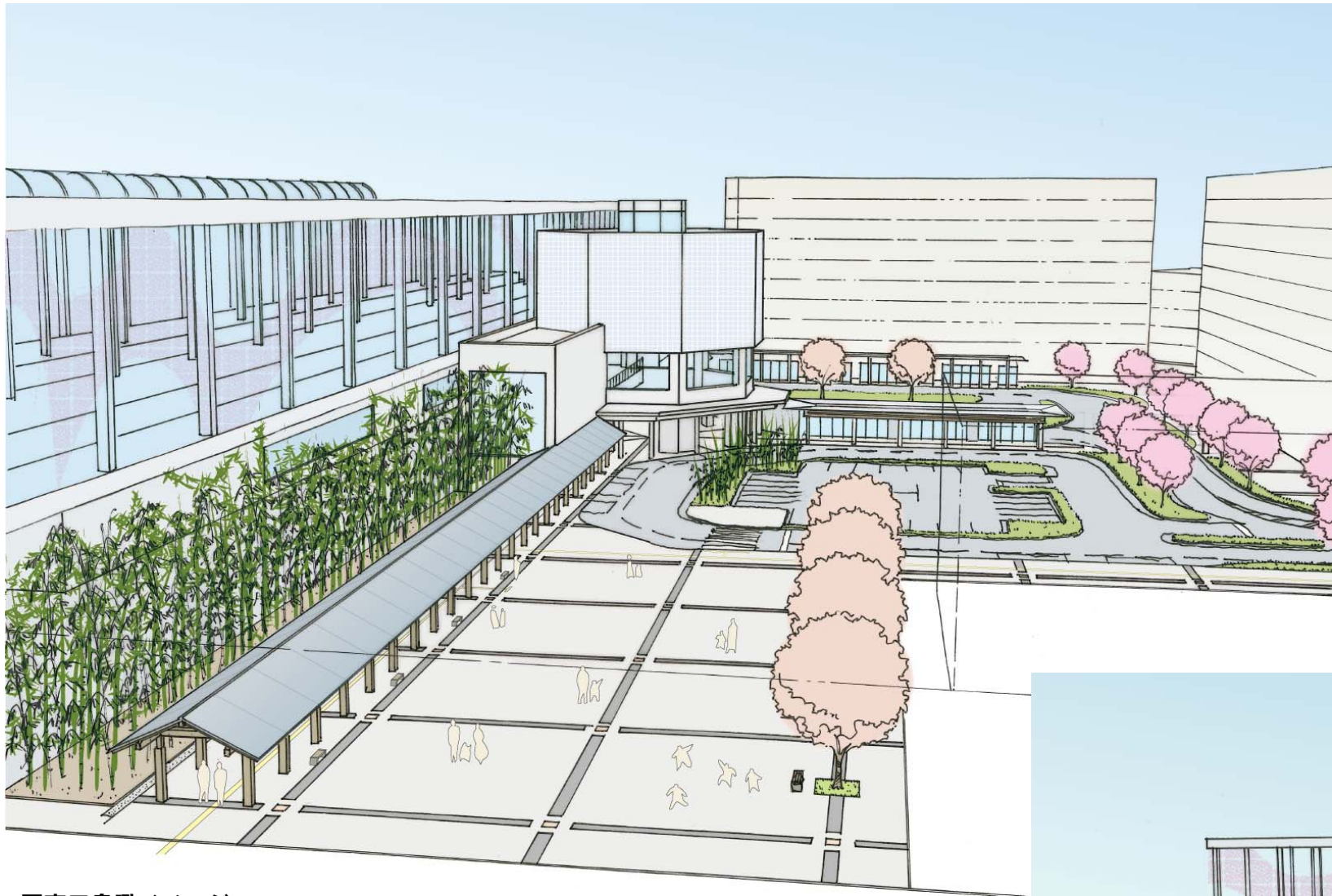


■平板ブロック舗装
濃い茶系のブロック舗装の中で、植栽と同間隔に配置し、テンポのある空間を創る。

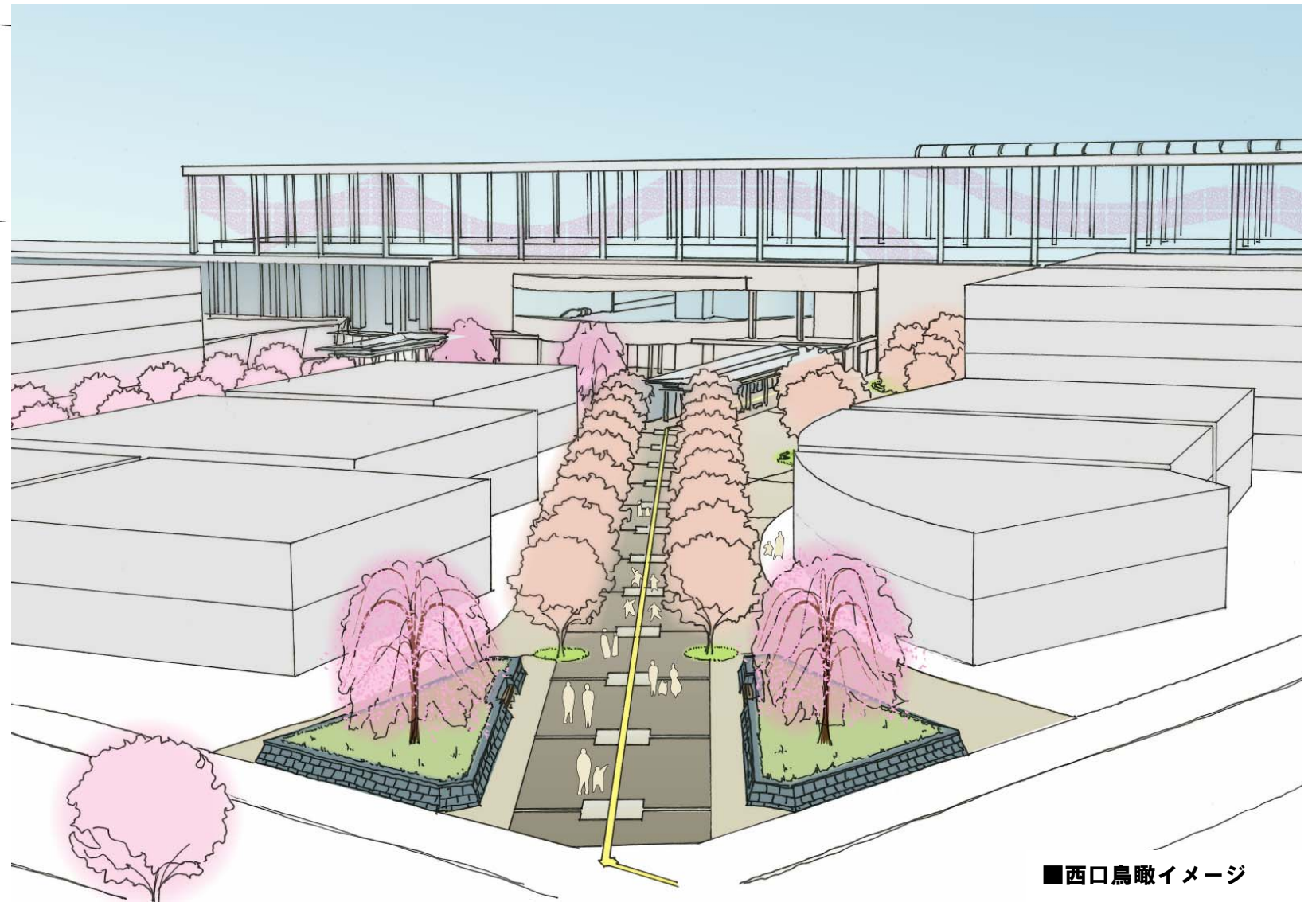


■洗い出し舗装
自然石種石を用い芝地にもあう自然な風合いとする。植栽を意識した目地の配置により、変化を持たせる。





■東口鳥瞰イメージ



■西口鳥瞰イメージ

7. 植栽計画

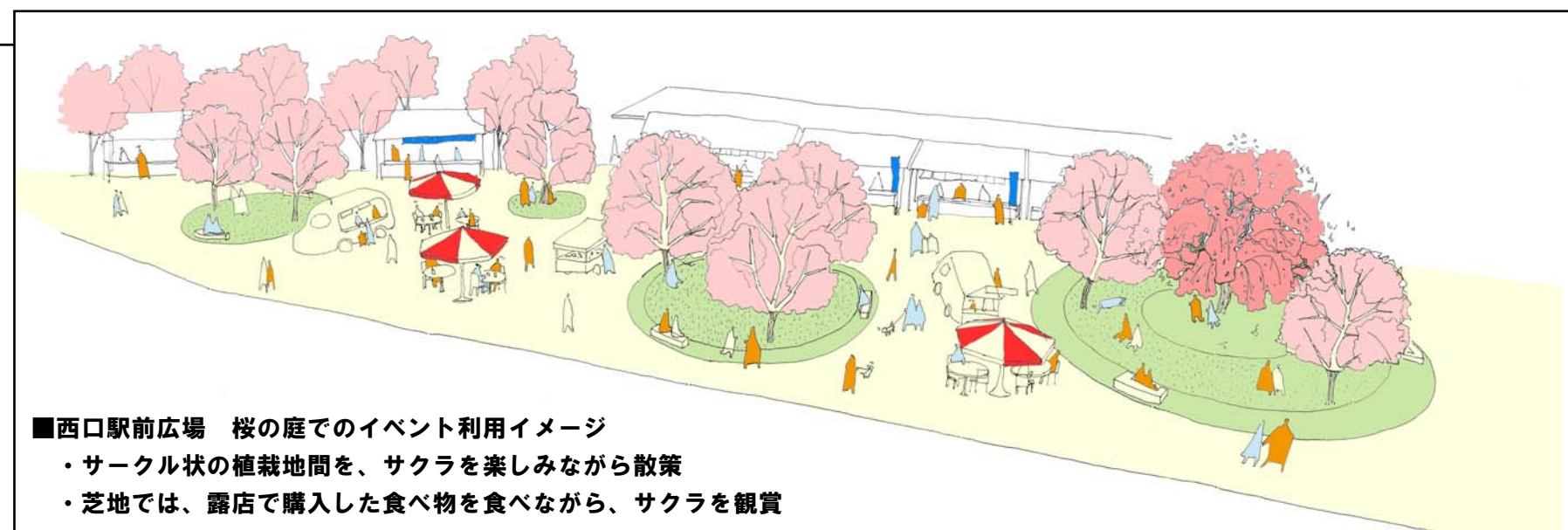
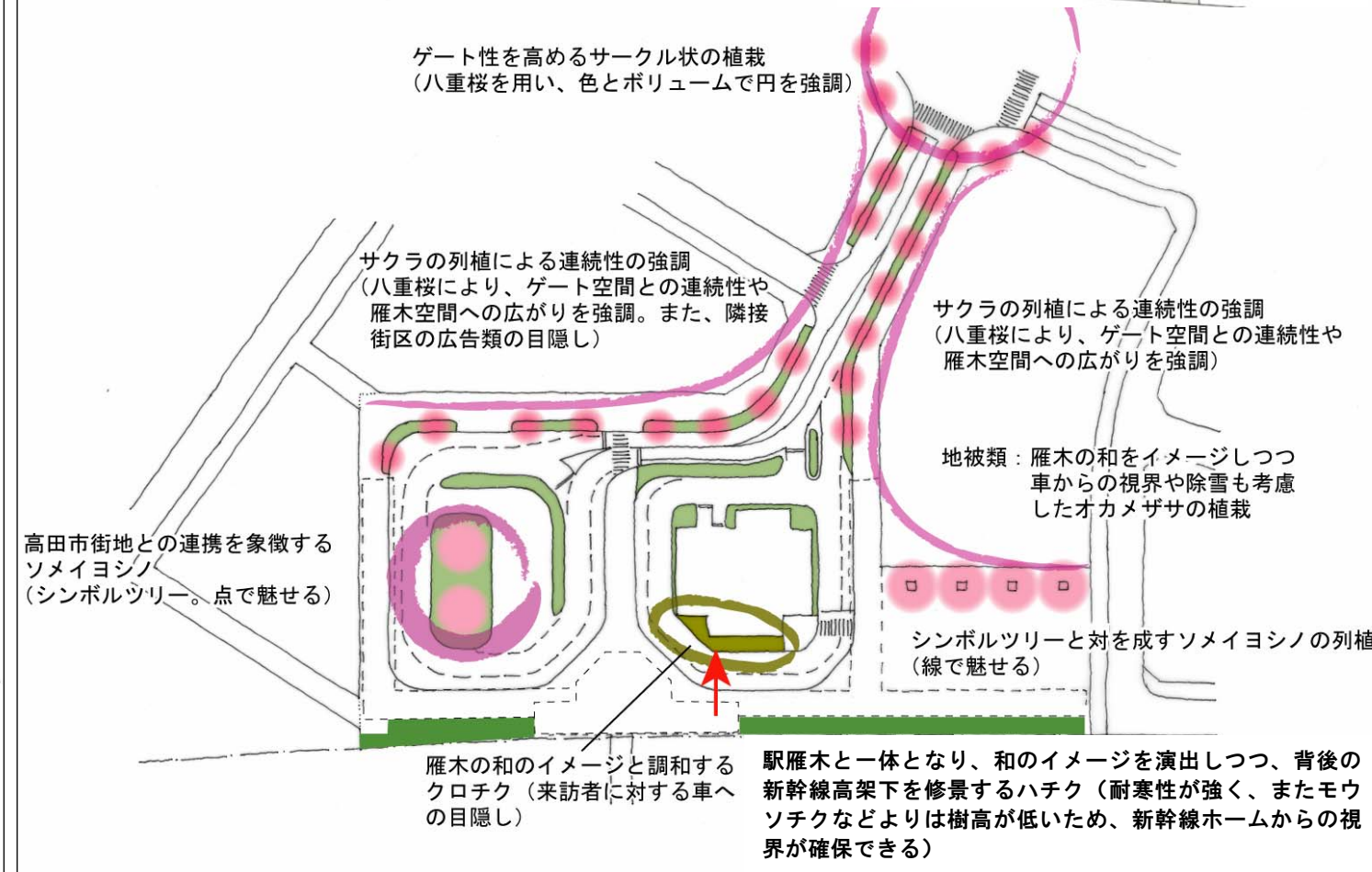
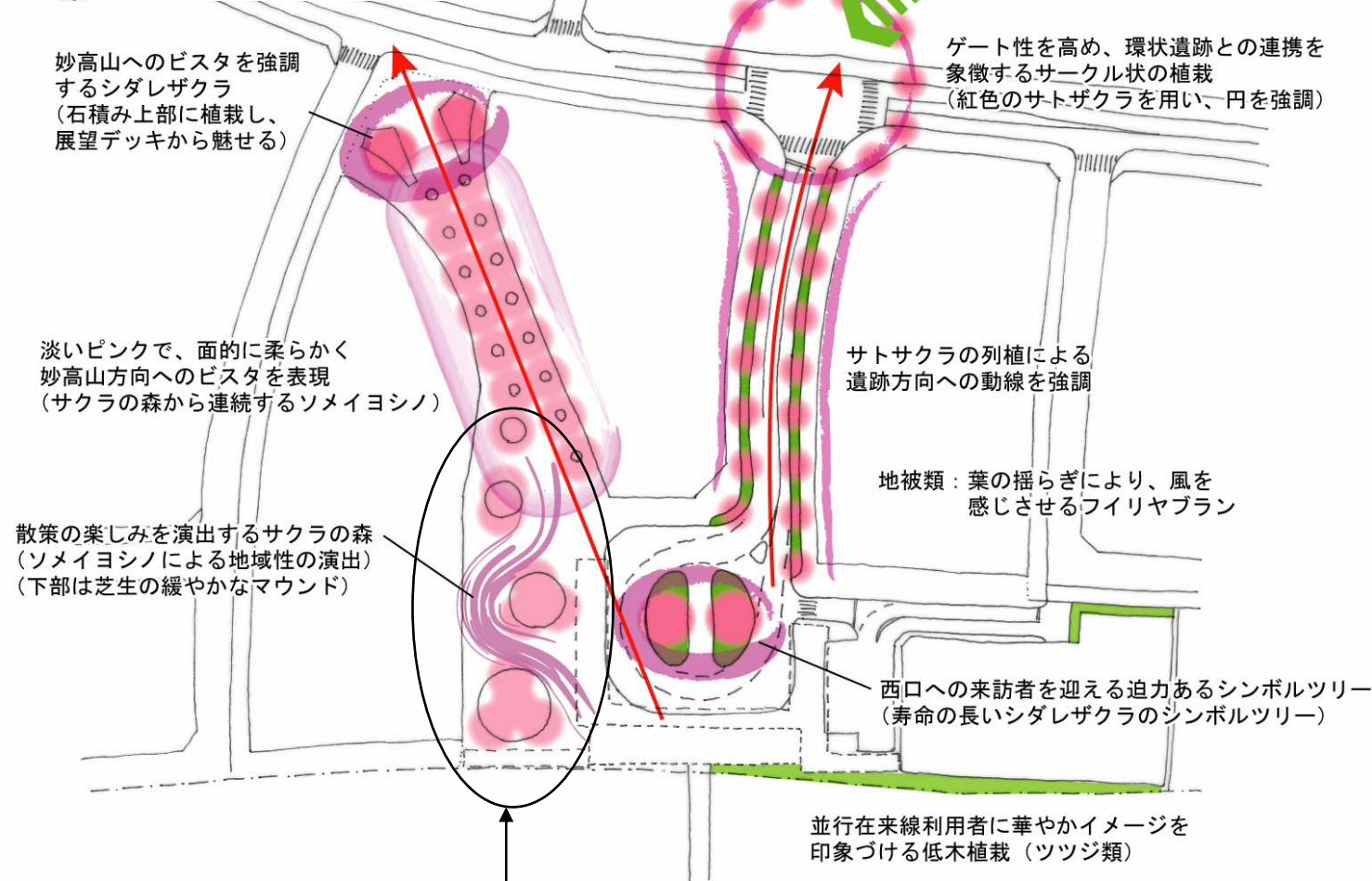
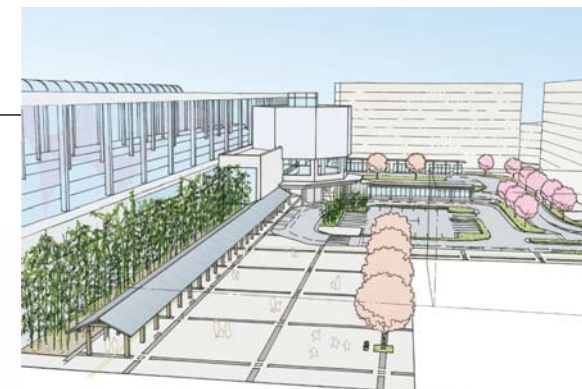
■植栽計画の基本的な方針■
 サクラを中心とした植栽により“上越らしさ”を創出
 低木や地被類により、通年で花を感じる空間の演出

■西口鳥瞰イメージ

■東口鳥瞰イメージ

西口：植栽計画の考え方

東口：植栽計画の考え方





植栽計画平面図 S=1/1,000

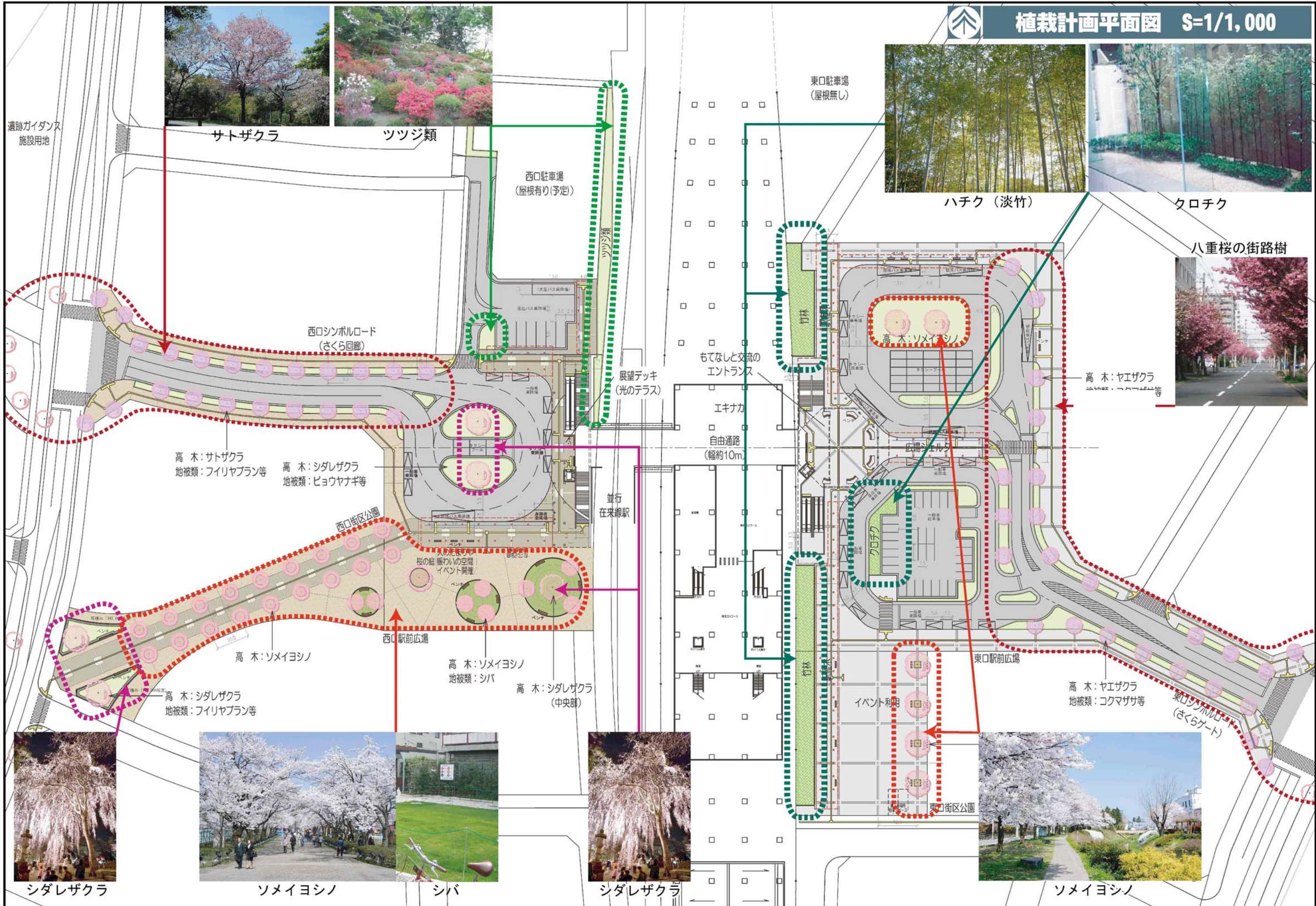


表 サクラ、低木及び地被類の開花時期

場所	樹種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
東口	高木	カンヒザクラ(ヨウコウ)			■									
		エドヒガン(ソメイヨシノ)			■	■								
		ヤエザクラ(カンザン)			■	■								
	低木	ジンチョウゲ			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		ハクチョウゲ					■	■	■	■	■	■	■	■
		コクチナシ									■	■	■	■
		アベリア										■	■	■
	地被・笹類	シバ												
		ハチク												
		クロチク												
コクマザサ														
西口	高木	エドヒガン(シダレザクラ)			■	■								
		エドヒガン(ソメイヨシノ)			■	■								
		サトザクラ(イチヨウ)			■	■								
	低木	オオムラサキ					■	■	■	■	■	■	■	■
		サツキツツジ					■	■	■	■	■	■	■	■
		アベリア									■	■	■	■
		キンシバイ									■	■	■	■
	地被類	ヒペリカム・カリシナム									■	■	■	■
		オオキンケイギク									■	■	■	■
		フィリヤブラン									■	■	■	■
シバ														

■花と香りで来訪者をもてなす植栽

・東口の無彩色な空間に合う白系の花を付け、花だけでなく、香りで来訪者をもてなす植栽

写真上：ジンチョウゲ
写真中：ハクチョウゲ
写真下：コクチナシ



■夏から秋に彩りを添える植栽

・コクチナシと同時期に白系の花を付け、花期を長く楽しむ植栽：アベリア



■夏の緑に彩りを添える植栽

・釜蓋遺跡への多くの来訪者が見込まれる夏期に、深い緑に彩りを添える立体的な黄色の植栽

写真左：ヒペリカム・カリシナム
写真中：ビョウヤナギ、写真右：キンシバイ



■サクラに続いて空間に華やかさを与える植栽

・サクラの華やかさを引き継ぎ、アースカラーの広場空間に華やかさを与える植栽：ツツジ類



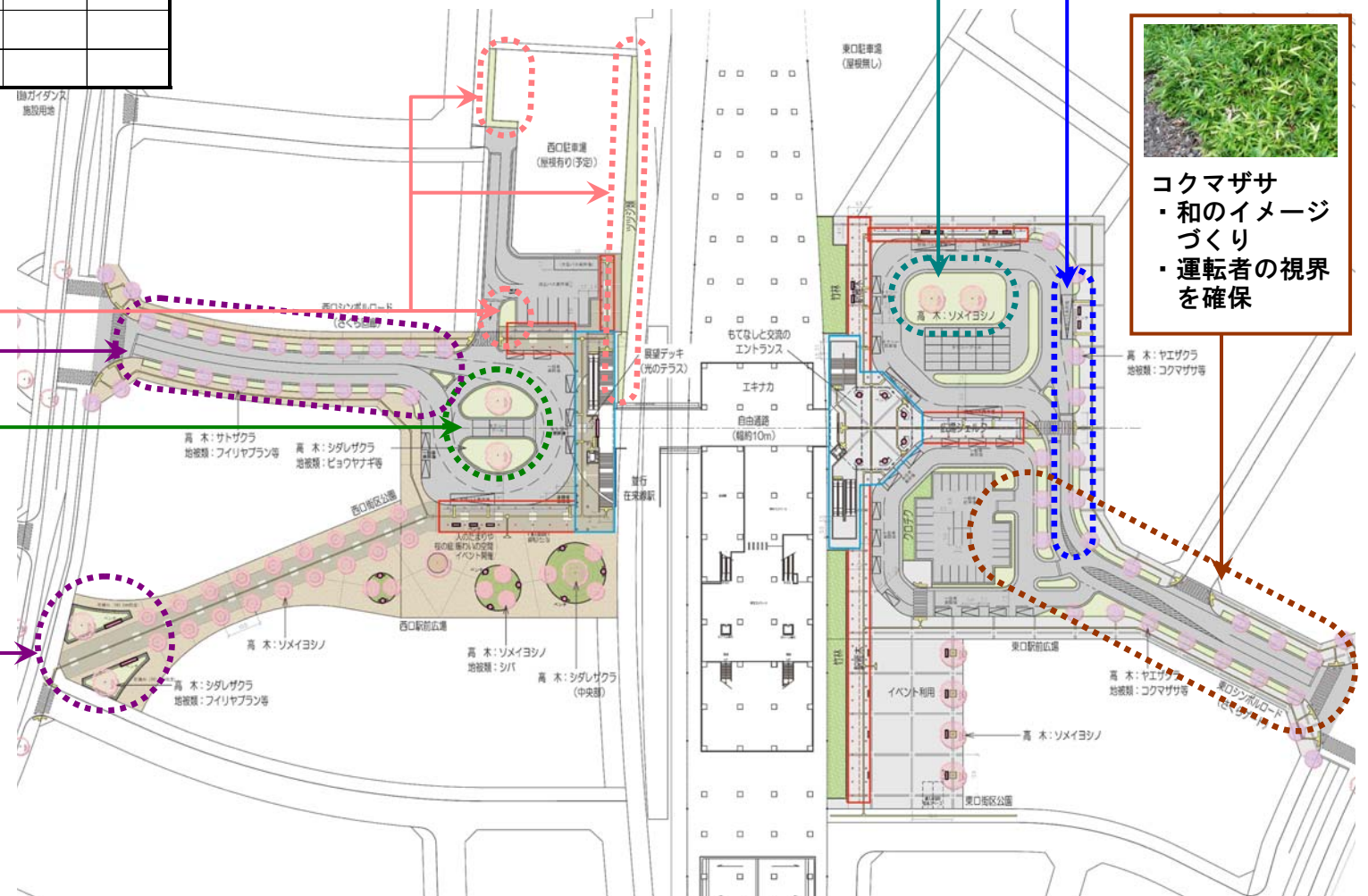
■風にそよぎ、自然を感じさせる植栽

・自然を感じながら釜蓋遺跡へと来訪者を誘導する、花や葉が風にそよぐ植栽

・写真：フィリヤブラン
アベリアの高低配列で植栽し、立体感を演出する



コクマザサ
・和のイメージづくり
・運転者の視界を確保

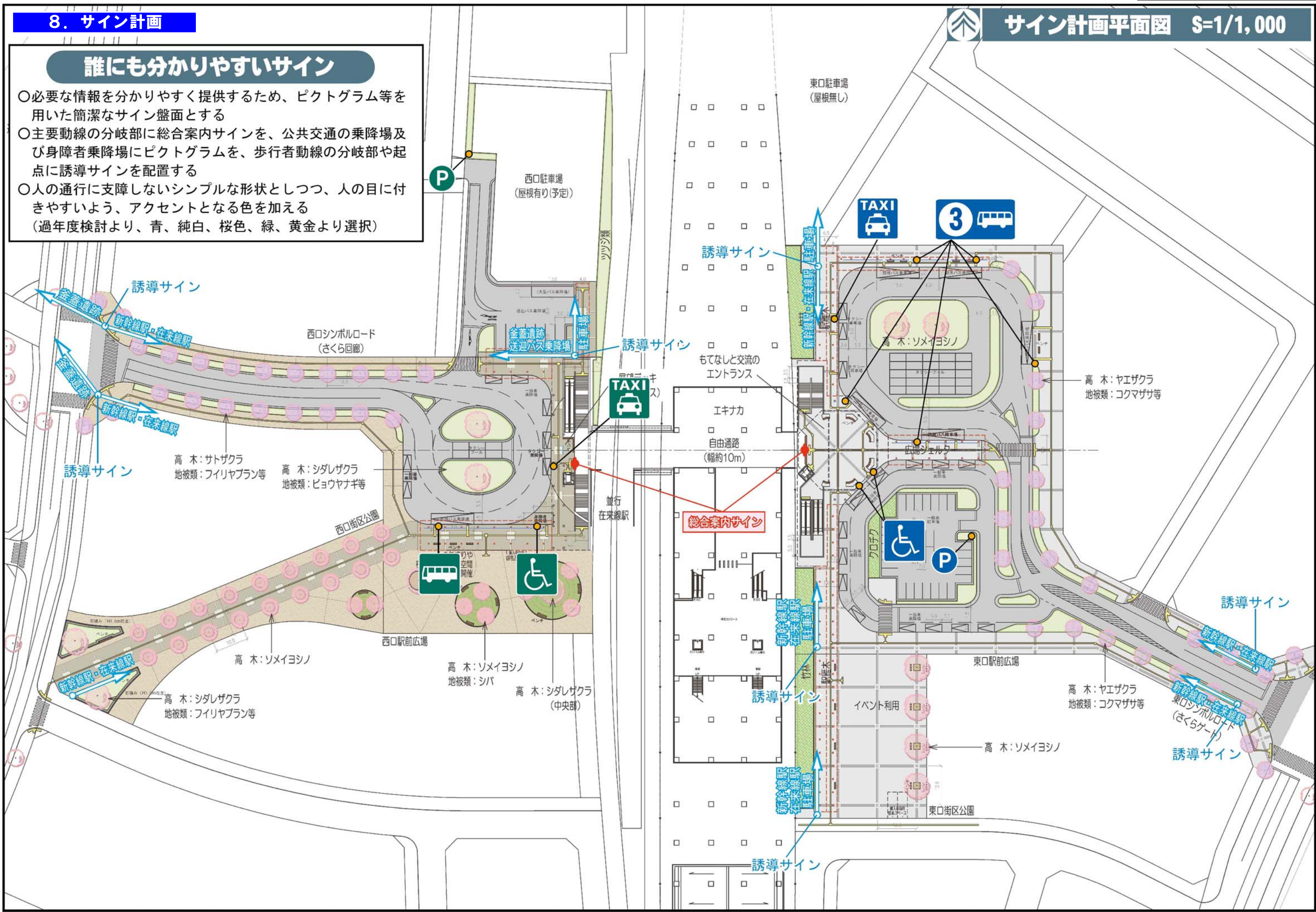


8. サイン計画

サイン計画平面図 S=1/1,000

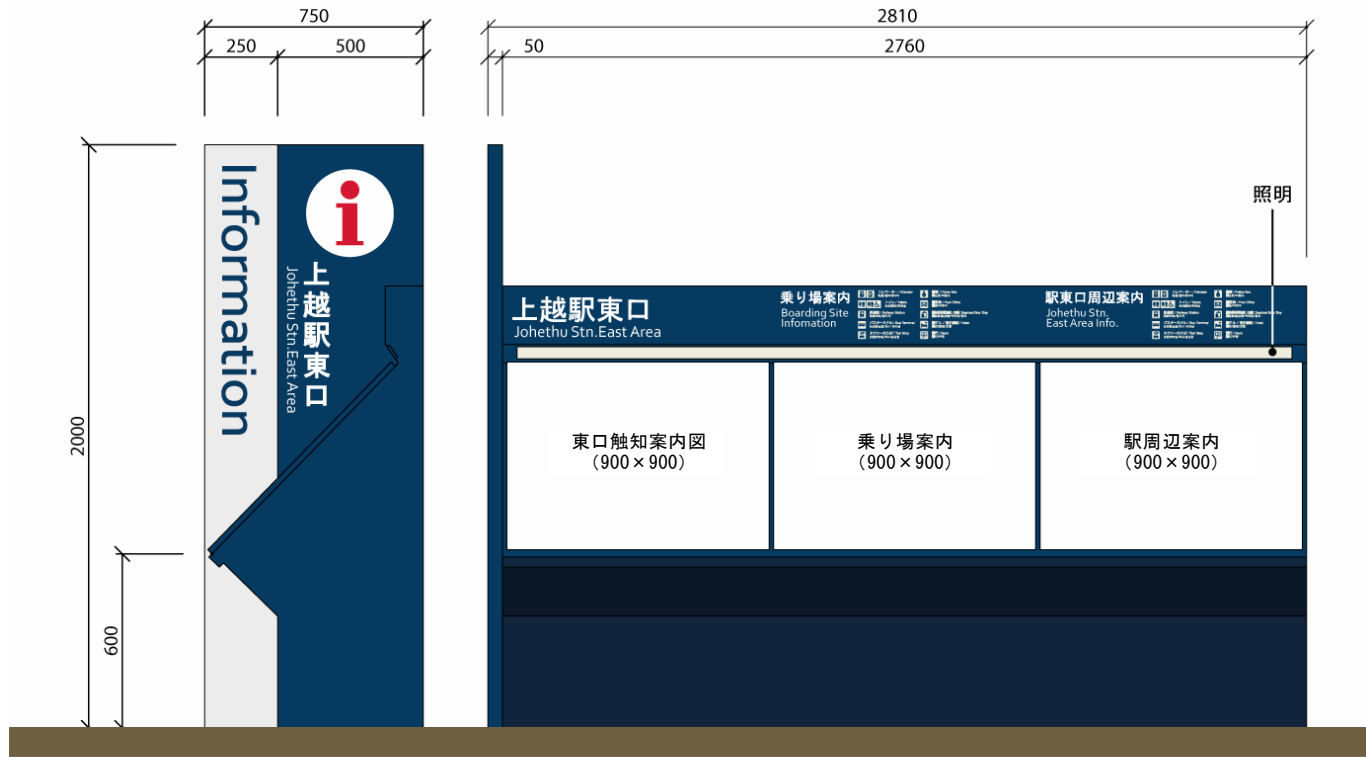
誰にも分かりやすいサイン

- 必要な情報を分かりやすく提供するため、ピクトグラム等を用いた簡潔なサイン盤面とする
- 主要動線の分岐部に総合案内サインを、公共交通の乗降場及び身障者乗降場にピクトグラムを、歩行者動線の分岐部や起点に誘導サインを配置する
- 人の通行に支障しないシンプルな形状としつつ、人の目に付きやすいよう、アクセントとなる色を加える
(過年度検討より、青、純白、桜色、緑、黄金より選択)



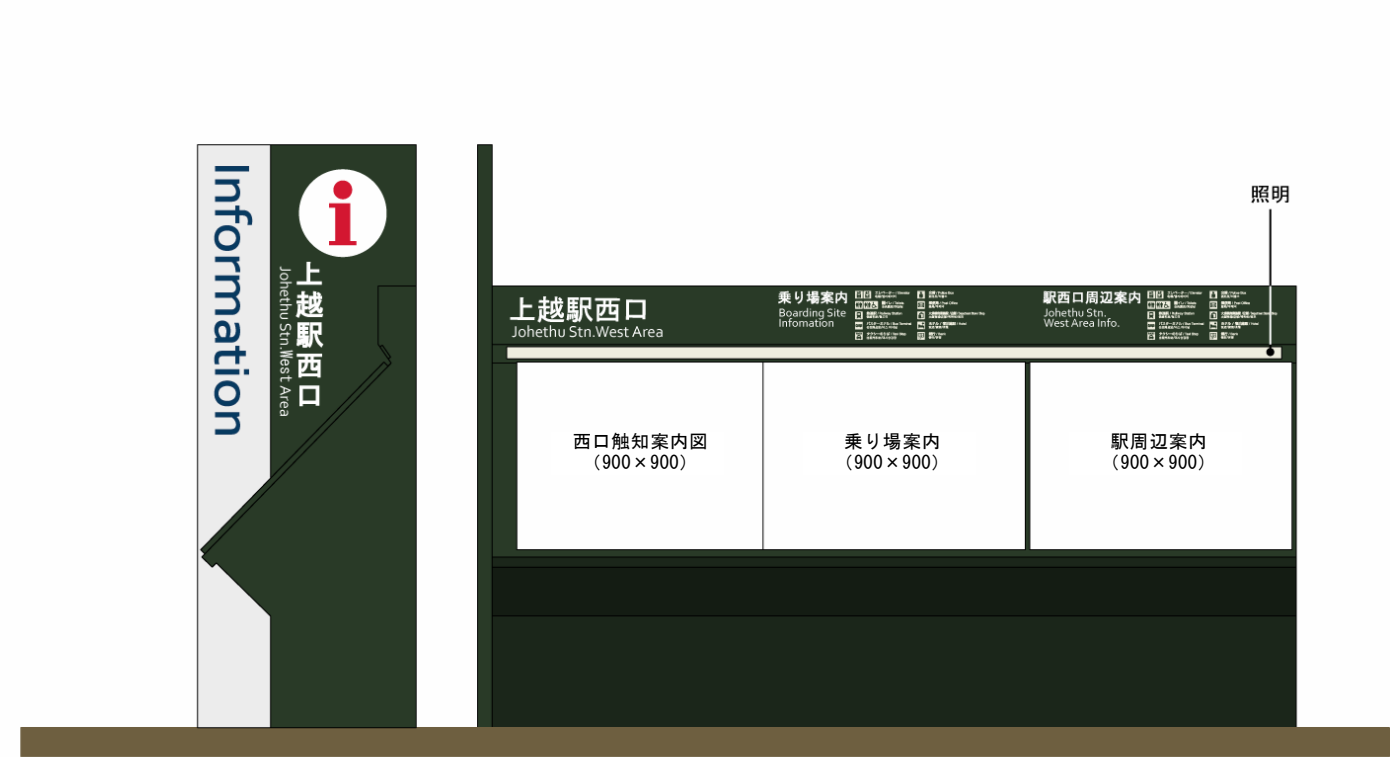
東口サイン姿図

総合案内サイン

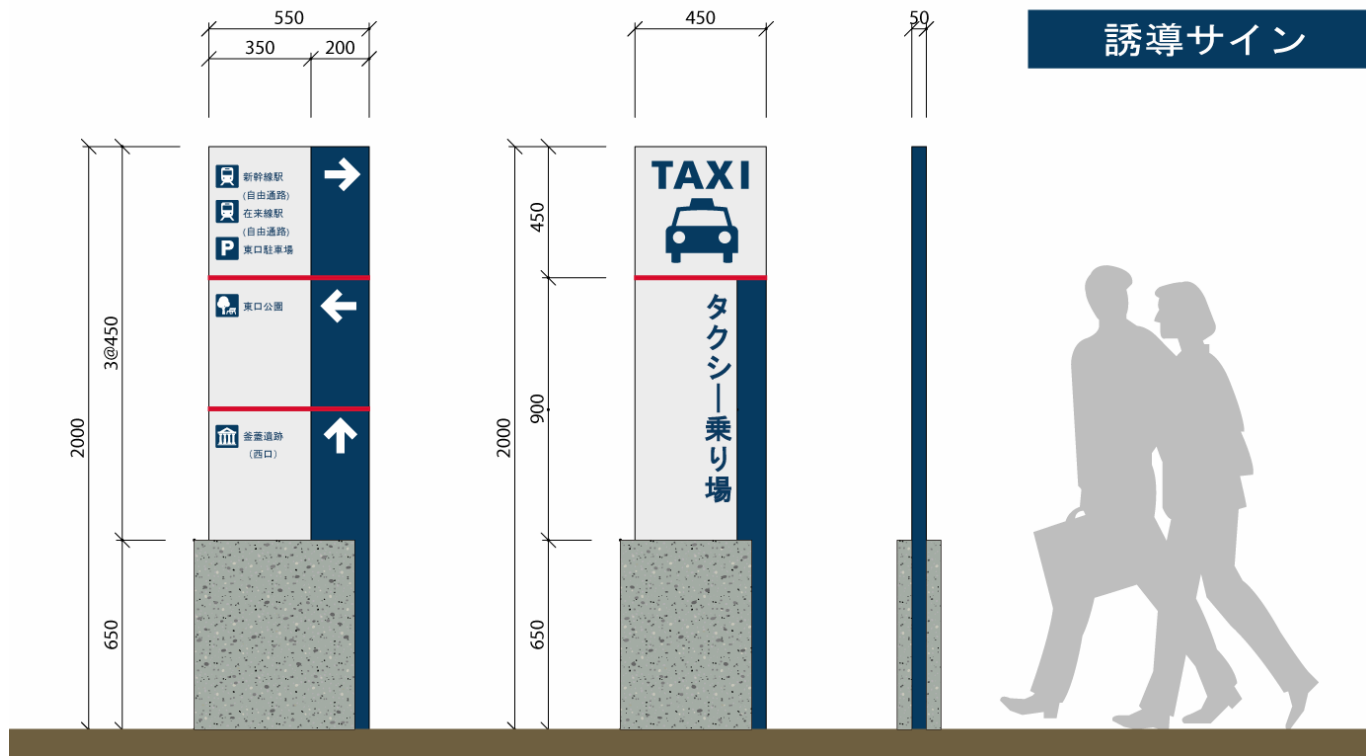


西口サイン姿図

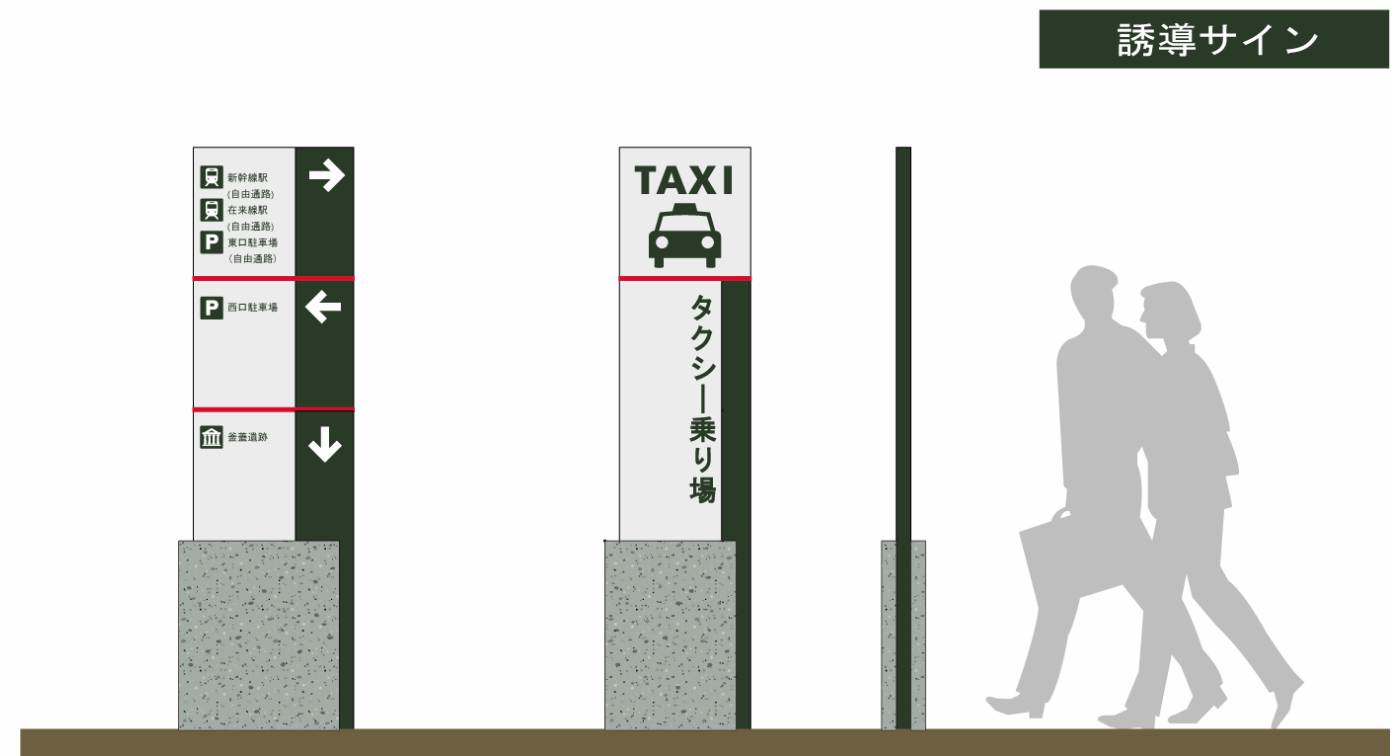
総合案内サイン



誘導サイン



誘導サイン



- 無彩色を基本とする東口においては、基本色として紺色を用い、無彩色の空間内で人の目に付くよう、ラインなどに赤（紅色）を用いる
- サインの足もとには、千草石を用いた修景を行う

- アースカラーを基本とする西口においては、基本色として濃い緑（松葉色）を用い、無彩色の空間内で人の目に付くよう、ラインなどに赤（紅色）を用いる
- サインの足もとには、千草石を用いた修景を行う

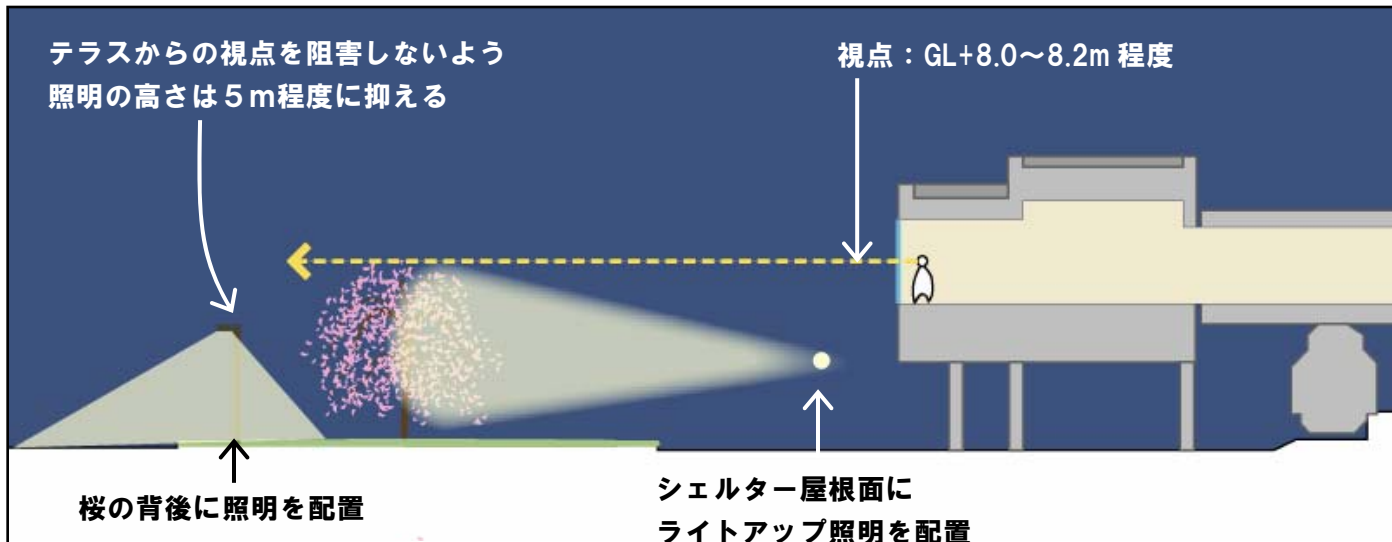
9. 照明計画

■ベース照明

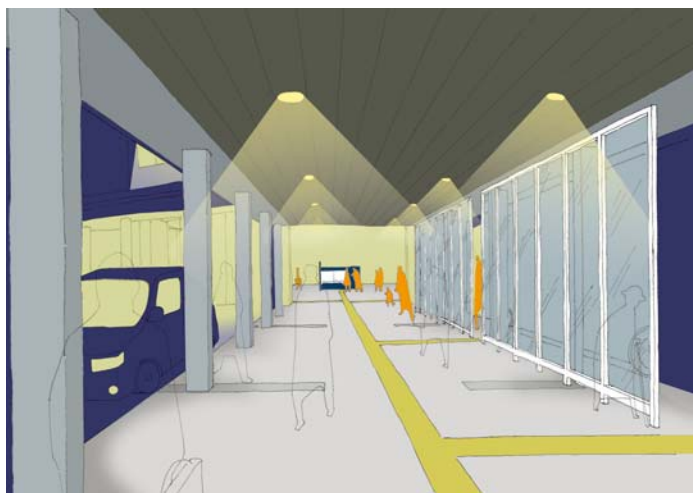
- 駅前空間の利用者（車）の安全性を確保するため、車道の屈曲部や合流地点、歩行者の主要動線上にベースとなる照明を配置する
- 照明配置は歩車道の境界部への配置が効率的であるが、施設計画より歩車道境界は概ねシェルターが配置されることから、シェルターが配置される場所については広場内の交通島に配置する
- シェルターや駅雁木内は天井面へのダウンライトの配置や、天井面を照射するライトアップ照明を配置し、必要な照度を確保する
- 西口駅前広場のベース照明は、テラス空間（展望空間）からの山並みや桜への視界を阻害しないよう、来訪者の視点より低い位置に器具を配置する

■修景用照明

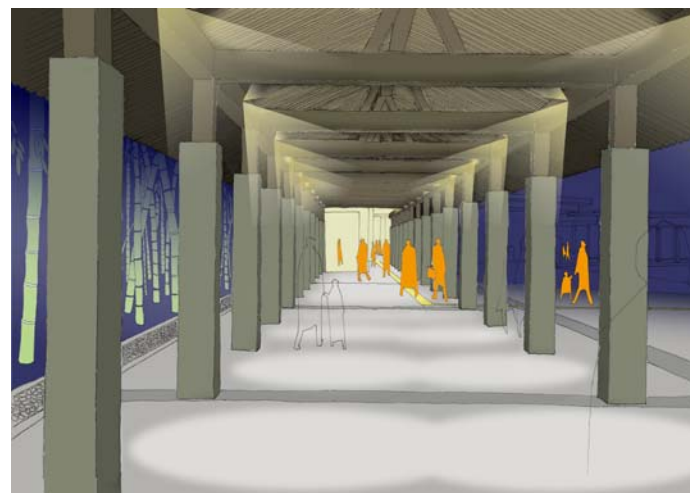
- 東口駅前広場は、駅前空間の拠点となるドームを美しくみせることを目的とした照明とし、行灯のような柔らかな灯りを確保する（新幹線駅舎側の照明計画との調整が必要）
- 西口駅前広場は、来訪者に夜桜の美しさを提供するため、シダレザクラを中心としたライトアップ照明を配置する。特にシダレザクラへのライトアップは、近接するシェルターに機器を配置することで、テラス空間（展望空間）からの視点に対して、圧倒的な存在感を演出する



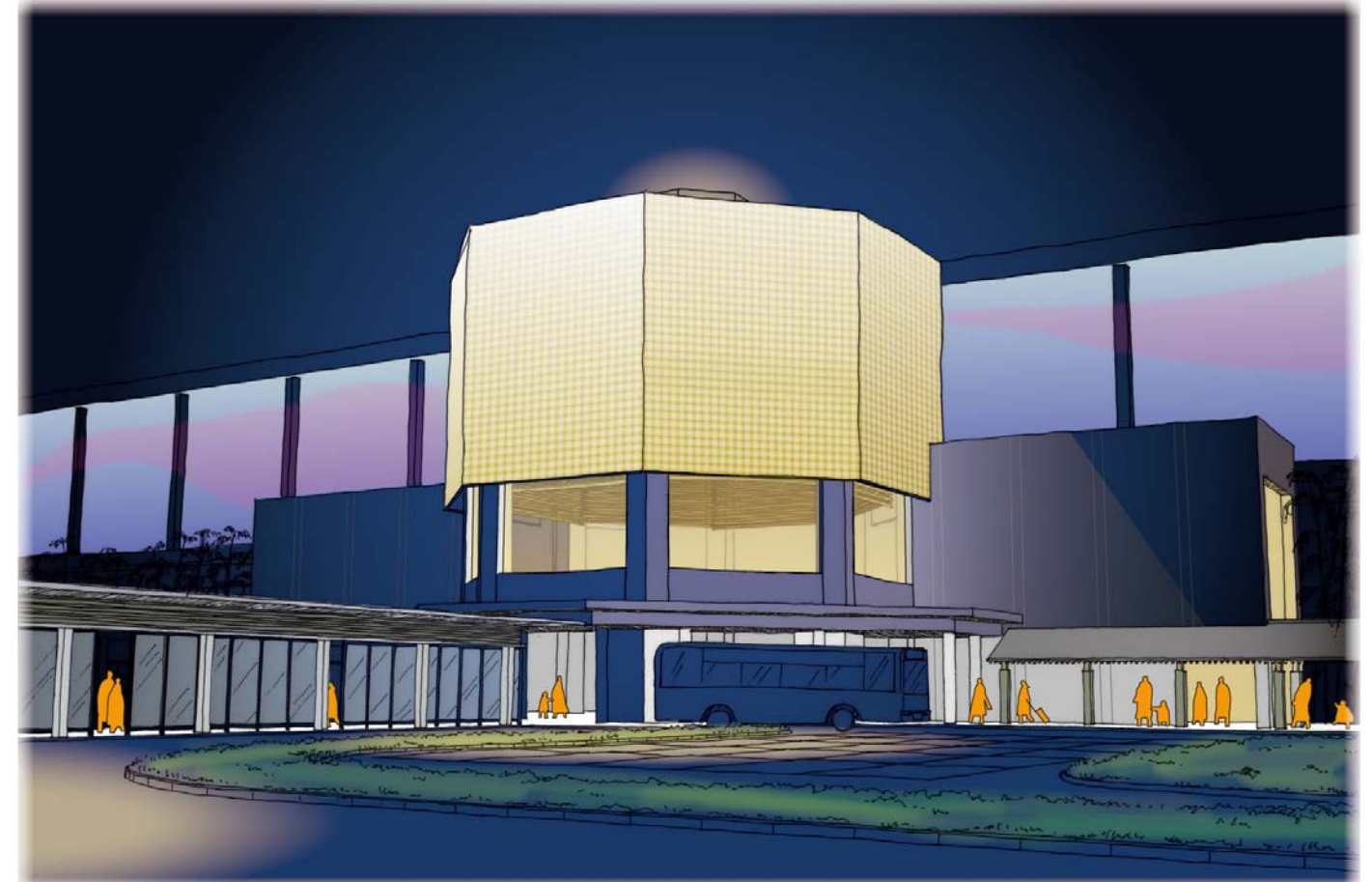
■西口駅前広場の照明計画にかかる配慮事項



■シェルターA下の照明イメージ



■駅雁木下の照明イメージ



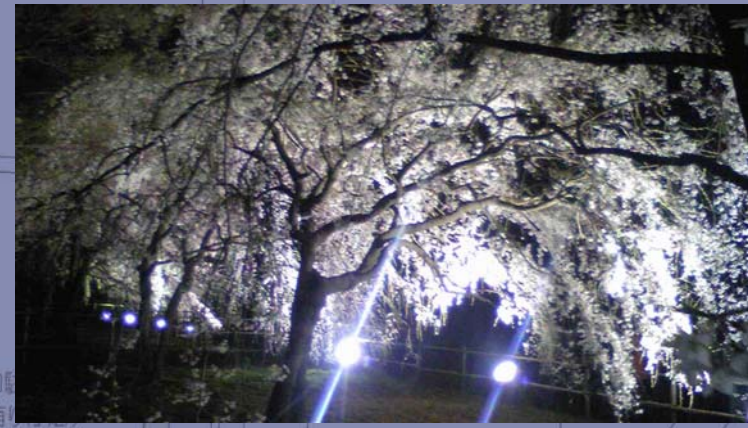
■東口ドームの照明イメージ

- ・行灯のような灯りで、夜景も記憶に残るような空間を形成する

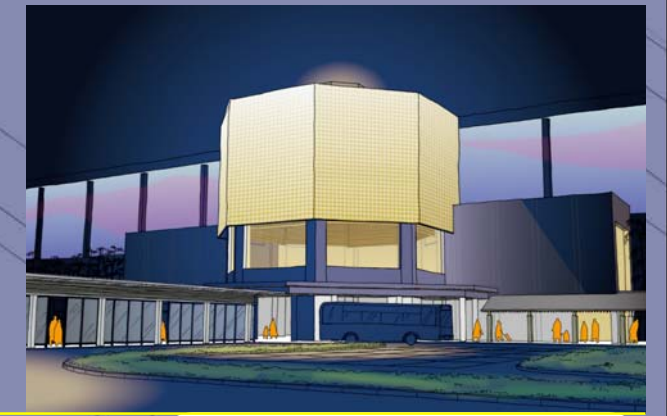


■西口テラス空間の照明イメージ

- ・シダレザクラのライトアップを強調するため、施設自体の華やかなライトアップは行わない

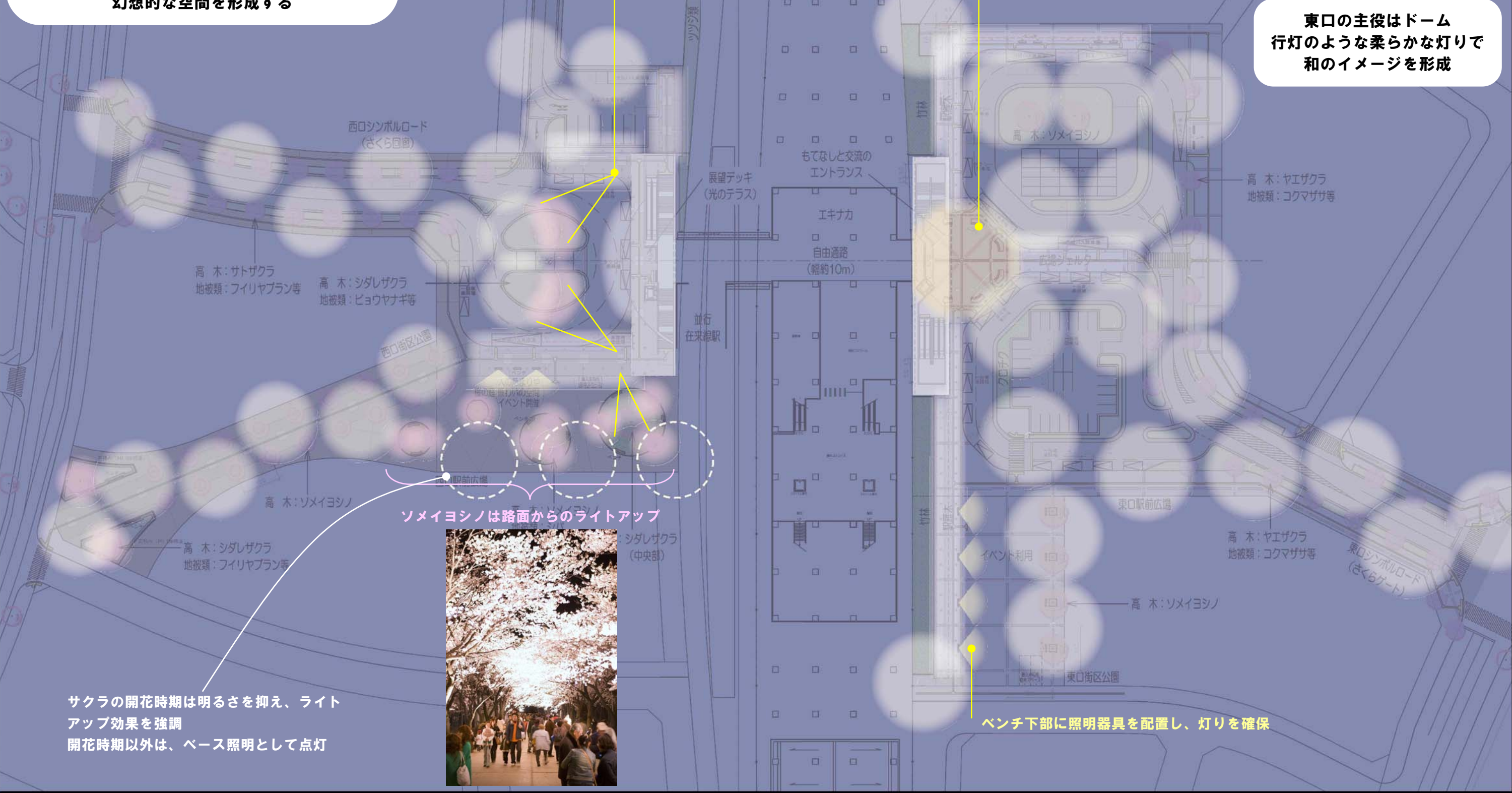


シェルター屋根面からシダレザクラをライトアップ



東口の主役はドーム
行灯のような柔らかな灯りで
和のイメージを形成

西口の主役はサクラ、夜はライトアップにより
幻想的な空間を形成する



ソメイヨシノは路面からのライトアップ



サクラの開花時期は明るさを抑え、ライトアップ効果を強調
開花時期以外は、ベース照明として点灯

ベンチ下部に照明器具を配置し、灯りを確保

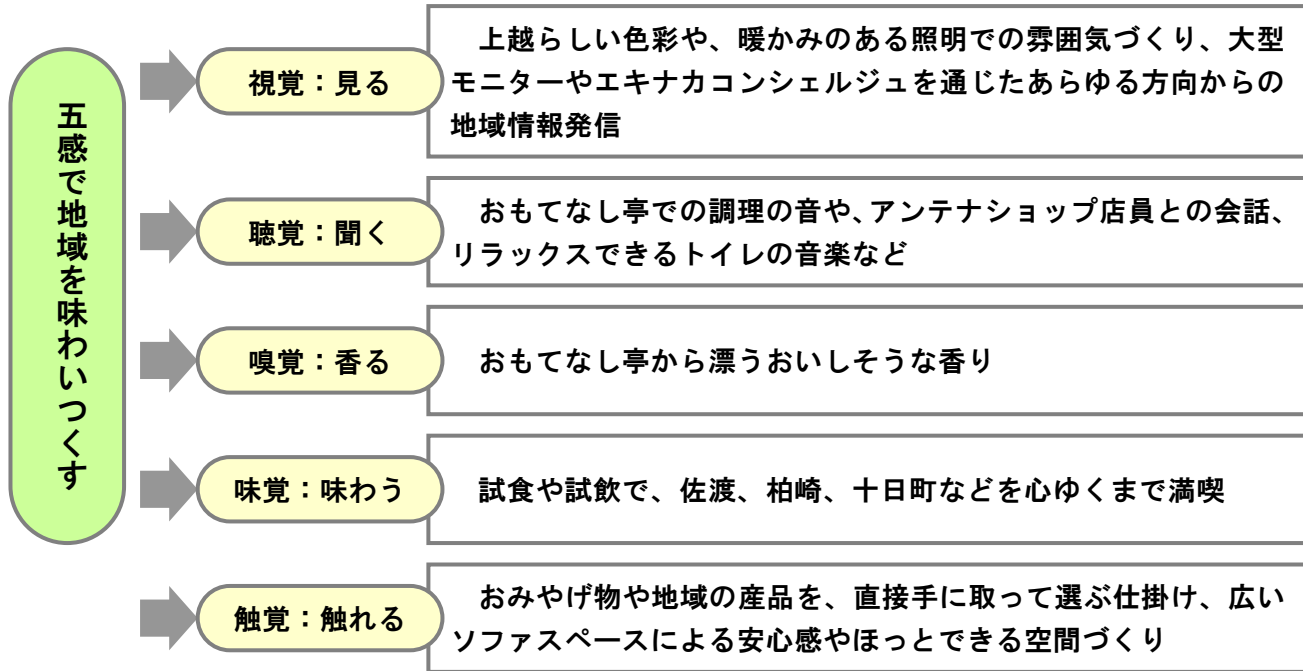
10. 自由通路・エキナカ計画

■エキナカ空間の基本コンセプト、導入機能と配置の関連について

○基本コンセプト

“五感で地域を味わいつくす”を基本コンセプトとし、導入機能の配置については、効果的な配置とその仕掛けを展開する。

○仕掛けと配置の考え方



■エキナカ空間に配置する機能

①エキナカ・コミュニティトイレ

- ・鉄道利用者だけでなく、地域住民や市民が自由に利用できるトイレ
- ・一般用トイレ、多目的トイレ、多目的ルーム、パウダーコーナー



②上越エキナカコンシェルジュ

- ・上越地域の観光や歴史文化情報など、様々な地域情報を3D情報で発信
- ・観光・宿泊情報、交通情報、歴史文化情報、地元製造品・商品情報、おすすめ情報、企業CMなど
- ・情報端末（パソコン）、携帯用情報端末（電子ポスターなど）
- ・パンフレット、ポスター掲示スペース



③上越おもてなし亭（飲食コーナー）

- ・カフェメニュー、お茶と和菓子、お酒とスル天など、上越、妙高、佐渡、十日町、柏崎それぞれのオリジナルメニュー、連携したメニューなど、この地域でしか食べられないものを、早く、易く、おしゃれに提供
- ・季節毎に商品を変更したり、イベント的に商品を提供するなど、運営を工夫



④上越エキナカアンテナショップ

- ・ビジネス客や旅行者が帰り際にお土産を買える物産コーナー
- ・飲食コーナーで気に入った土産物の購入、後日の取り寄せサービスなどの工夫

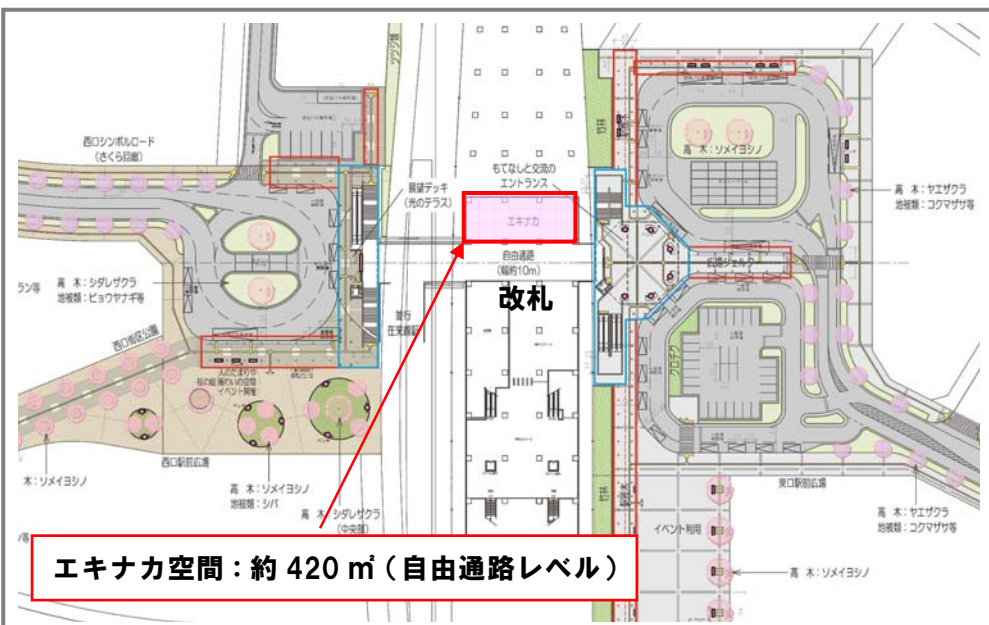


⑤コミュニティスペース（待合所）

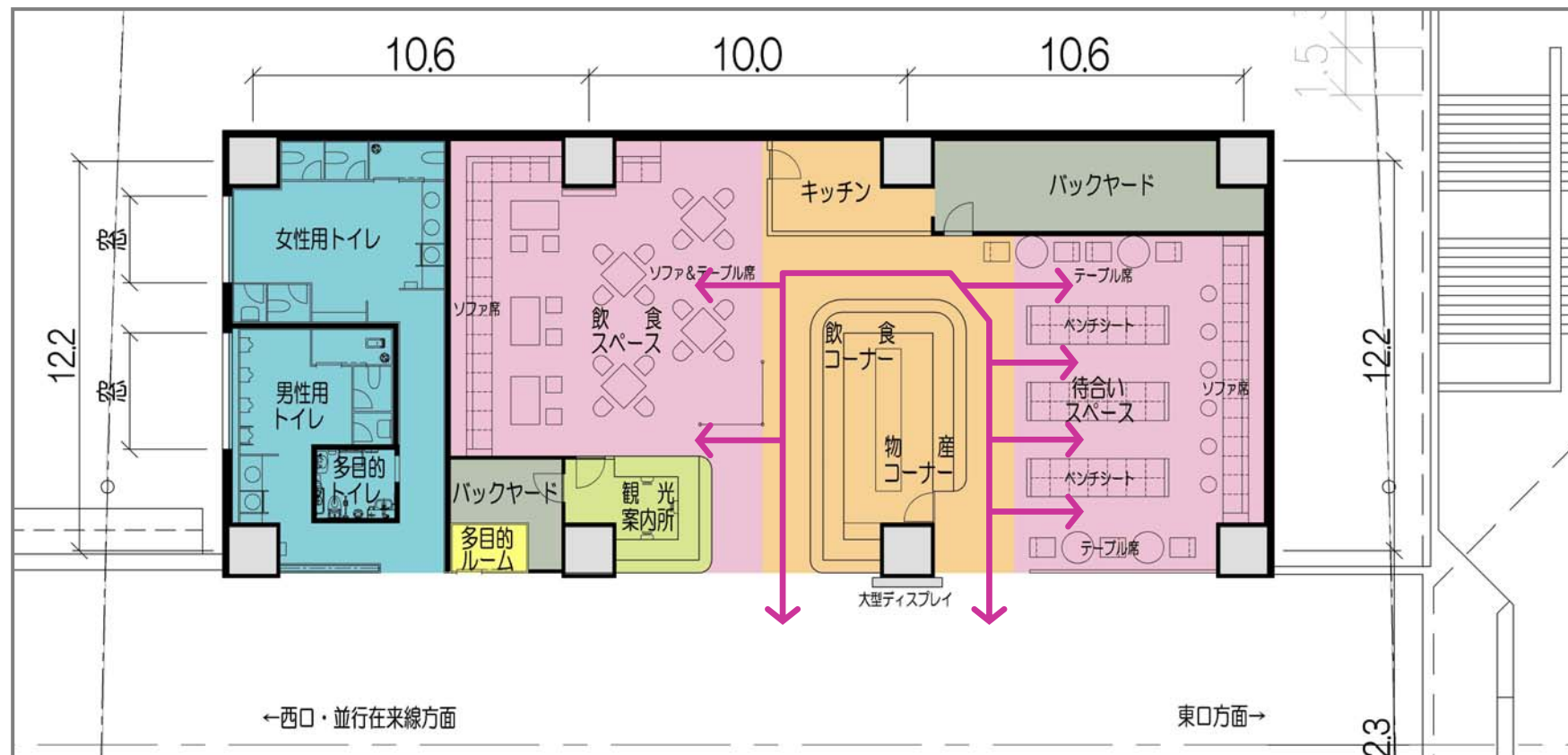
- ・乗り換えや送迎時の空き時間を快適に過ごせるスペース
- ・天井からディスプレイを吊し、地域情報を発信
- ・カウンター席（モニター、電源含む）、イス席、テーブル席



平面レイアウト
 ・物産コーナー重視案
 ・飲食・待合いコーナー重視案
 （各案平面レイアウトは次頁）

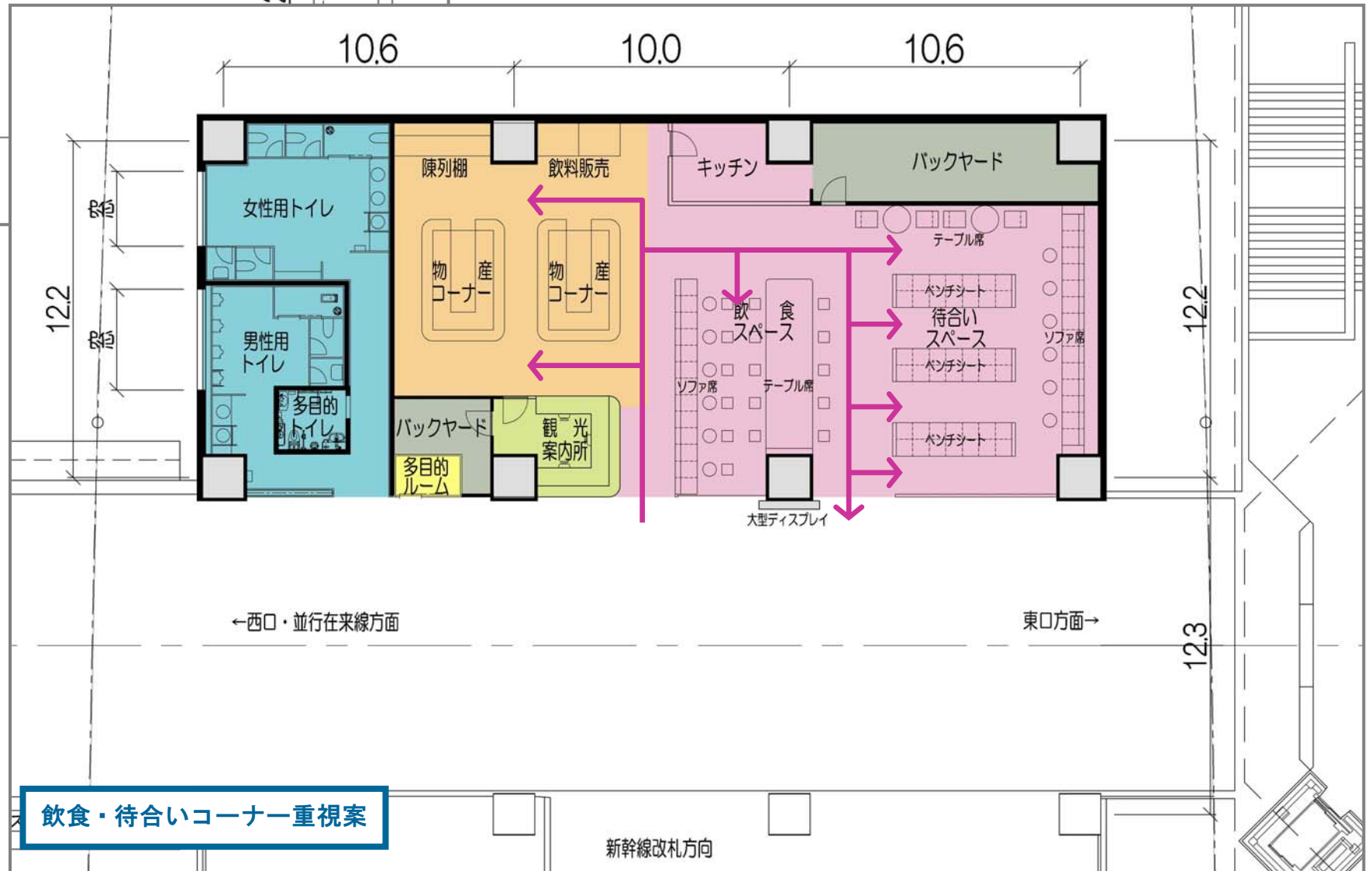
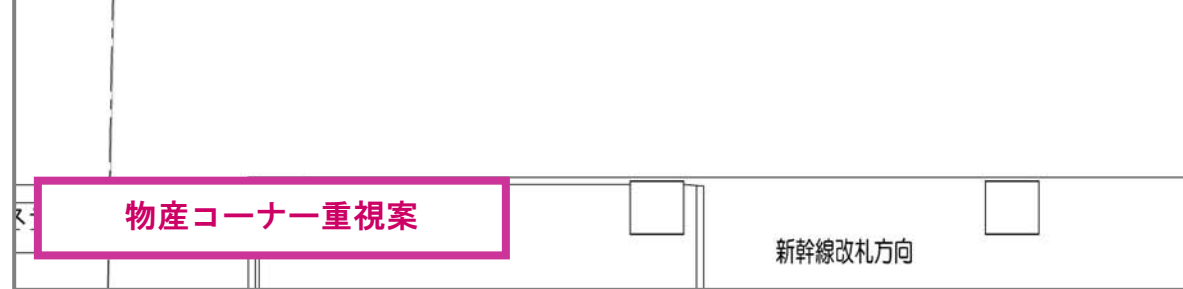


■駅空間の中での“エキナカ空間”の位置



物産コーナー重視案

- ・来訪者に対して、上越市並びに周辺市町村のアピール力を強めるため、物産コーナーを中心に配置
- ・エキナカ中央で試飲試食が楽しめ、その風景が新幹線改札口真正面に見える（人の目に触れやすい）また東口、西口双方からの利用者にも利用しやすい回遊性の有る動線がメイン動線となり、メイン動線から、分岐する形で各待合いスペースを利用
- ・コミュニティスペース
おもてなし亭西側は、物産等の飲食利用や、ゆったりと新幹線を待つ観光客などに配慮した、ソファ・テーブル席で構成
おもてなし亭東側は、待ち合わせの学生など、比較的短時間利用を対象とし、ソファ、テーブル、ベンチシートなど多様な利用へ対応

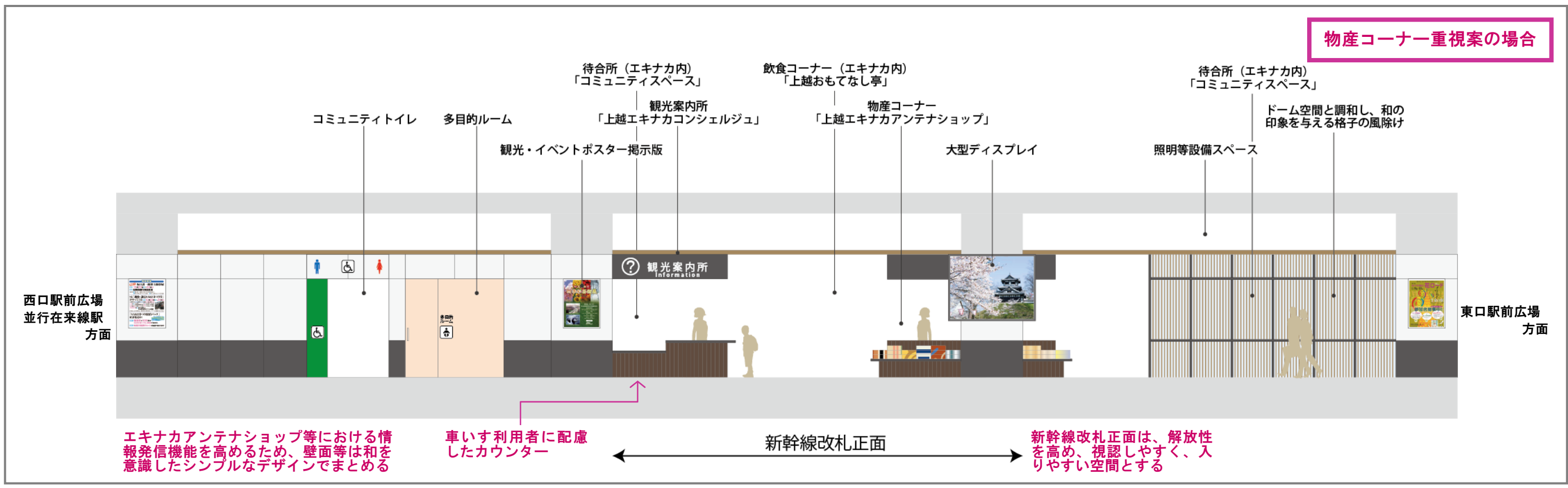


飲食・待合いコーナー重視案

- ・来訪者がゆっくりと休める空間を中心とするよう、コミュニティスペースを一体的に配置
キッチンに近い中央には、飲食に対応するテーブル席、ソファ席を配置
- ・東側は、待ち合わせの学生など、比較的短時間利用を対象とし、ソファ、テーブル、ベンチシートなど多様な利用へ対応
- ・観光案内所奥側におもてなし亭を配置し、案内所カウンター越しに、試飲など、地域物産を楽しむ姿を見せる
- ・新幹線正面通路がメインの動線となり、各利用者が物産や待合いへ分岐する

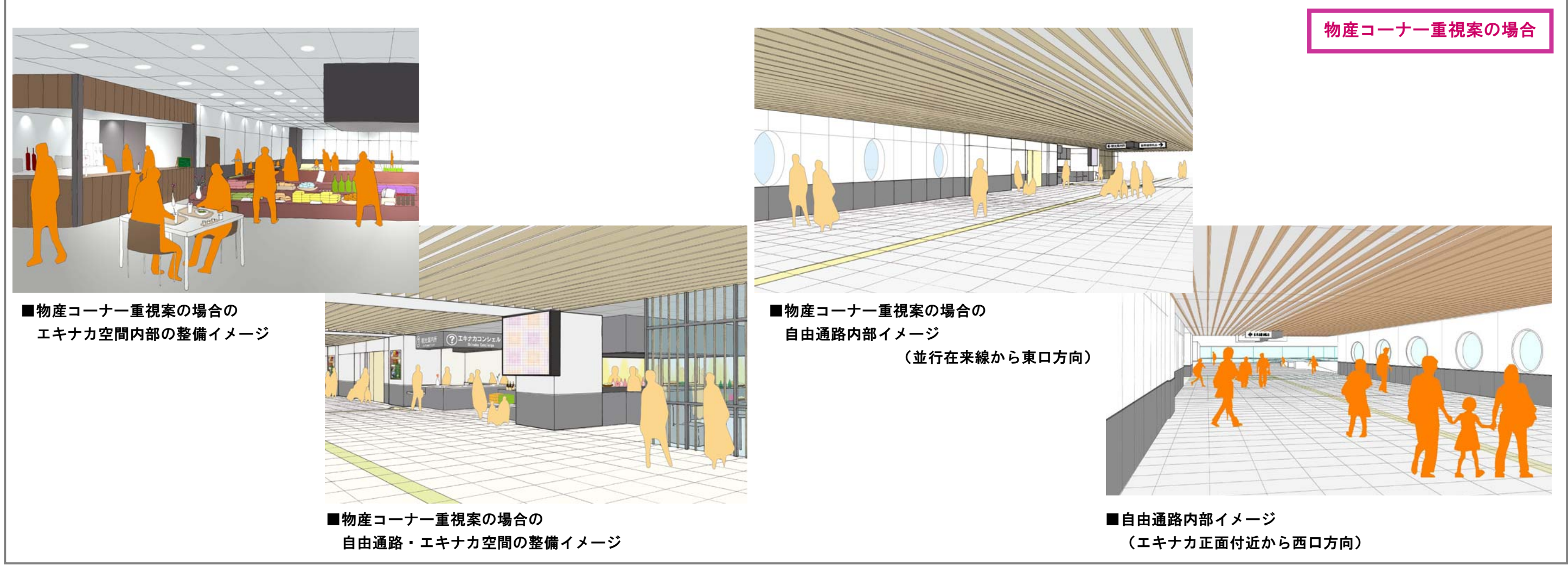
飲食・待合いコーナー重視案

物産コーナー重視案の場合



■物産コーナー重視案の場合のエキナカ空間のファサード

物産コーナー重視案の場合



1.1. 色彩計画

○基本的な考え方
～使いやすさ（機能）と地域らしさ（個性）～

■西口■
サクラや遺跡、背景となる妙高山などの山並みや自然

西口：自然的な要素との調和や自然に包まれた暖かみ
アースカラーを主体とした空間づくりにより、
周辺環境との一体化を目指す

- 施設計画
 - ・自由通路昇降施設は広場内で大きな存在となることから、アースカラーでまとめ、落ち着いた空間づくりを目指す
 - ・ベンチなどには自然の色、地域の色として、くびき石を使用
- 舗装計画
 - ・アースカラーを用い、妙高山への軸線を強調するなど、自然との連携に配慮した色の使い方
- 植栽計画
 - ・植栽の緑が昇降施設や舗装のアースカラーと調和
 - ・サクラによる特徴づくりと、サクラ以外の季節における花による彩りの演出
- サイン計画
 - ・アースカラー中心のシンプルな空間の中で人の目に付きやすく、周辺の色彩とも調和する濃い緑色を採用
- 照明計画
 - ・周辺施設と調和するよう、濃い茶系の照明とする
 - ・間接照明などの工夫による、雰囲気と迷わない空間づくり

■東口■
特徴的なドームと雁木、背景となる建築物

東口：ドーム空間のシンボル性や駅雁木の暖かみ
無彩色を主体とした空間づくりにより、
ドームや駅雁木を引き立たせる

- 施設計画
 - ・自由通路昇降施設は、ドームを引き立たせ、駅雁木と調和するよう無彩色でまとめる
 - ・駅雁木に使用する木や、夜のドーム照明の温かみを感じさせる
 - ・ベンチなどには自然の色、地域の色として、くびき石を使用
- 舗装計画
 - ・施設計画と同様、無彩色とし、駅雁木の柱や視覚障害者用誘導ブロックの配置とも調和するようなグリッド状の色の配置
- 植栽計画
 - ・サクラによる特徴づくりと、サクラ以外の季節における“白”を基調とした落ち着いた空間づくり（色よりも香りでもてなす）
- サイン計画
 - ・無彩色中心の落ち着いた空間の中で人の目に付きやすく、周辺の色彩とも調和する濃い青色を採用
- 照明計画
 - ・周辺施設と調和するよう、グレー系の照明とする
 - ・間接照明などの工夫による、雰囲気と迷わない空間づくり

- エキナカ・自由通路
 - ・自由通路は、ドームの特徴的な木組みとの調和、和の印象づくりに向けて木を用いた空間
 - ・エキナカや自由通路は全体的に無彩色と木の組合せによる落ち着いた空間とし、エキナカで販売される商品や、それらを味わう来訪者の楽しむ姿を演出する（落ち着いた色彩と間接照明による効果的な演出など）



ユニバーサルデザイン計画図 S=1/1,000

12. ユニバーサルデザイン計画

○基本的な考え方

- ・各種施設の設計において、建築物については「公共建築物ユニバーサルデザイン指針」に基づき、建築物以外の施設については、バリアフリー化を基本としつつ、当該指針の趣旨を踏まえた配慮を行い、誰もが利用しやすい空間づくりを行う。

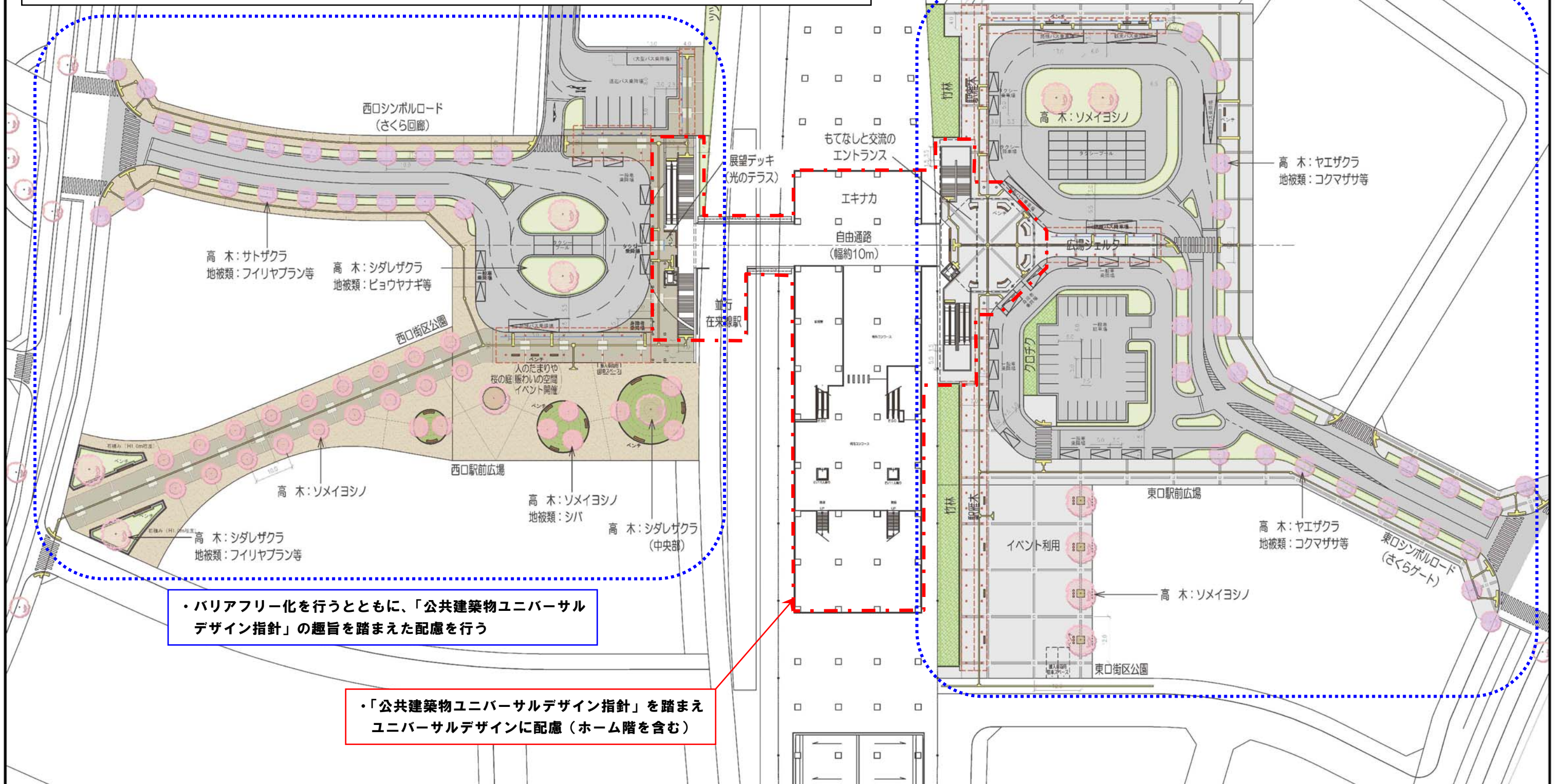
○駅舎や昇降施設などの建築物でのユニバーサルデザイン例

- ・段差を識別しやすい段鼻と周囲の色の区分。トイレのオストメイト対応。ガラス面への衝突防止の工夫 など
- ・エレベーター、エスカレーター周辺における音声案内の設置 など

○舗装やサインなどの広場内施設でのユニバーサルデザイン例

- ・舗装：段差のない平坦な仕上げ。濡れても滑らない素材・仕上げ。透水性の素材 など
- ・サイン：視覚障害者用誘導ブロックの敷設を考慮した色彩。誰もが直感的に分かるピクトグラムの使用 など
- ・排水施設：杖や車いすのタイヤが落ち込まない構造。濡れても滑らない素材・仕上げ など

・バリアフリー化を行うとともに、「公共建築物ユニバーサルデザイン指針」の趣旨を踏まえた配慮を行う



・バリアフリー化を行うとともに、「公共建築物ユニバーサルデザイン指針」の趣旨を踏まえた配慮を行う

・「公共建築物ユニバーサルデザイン指針」を踏まえユニバーサルデザインに配慮（ホーム階を含む）